



白方 誠 彌

近畿病院図書室協議会会長

淀川キリスト教病院院長

近畿病院図書室協議会が設立されてから20年を迎えるにあたり、その発展のために多くの労を惜しまれなかった関係者の皆様と共に慶びたいと思います。

私が医学部を卒業した昭和30年頃のことを思い出してみますと、医学図書室の仕事は図書閲覧の場所としての機能が主で、特に必要な文献は写真をとって現像するという状況にありました。文献は医学中央雑誌と Index Medicus より頁をめくりながら、時間をかけて検索するという時代でした。現在の情報時代を迎えて、コンピューター技術の発達により、文献検索も CD-ROM の導入により容易となり、文献収集も図書室間のネットワークの整備に伴い、Fax を用いて迅速に得られるようになりました。隔世の感がひとしおです。

近畿病院図書室協議会にメンバーとして参加して頂いている医療機関は、現在102機関に達し、このうち近畿外が26機関含まれていることは、病院における図書室の役割が重要であるとの認識が高まってきている証拠だと言えます。また、機関紙「病院図書室」も内容、装丁とも立派になりました。

今後の医療は、各分野における豊富な知識を、医師のみならず、看護婦、コメディカル、更には医事課職員も十分に持ち、それに基づいてチームワークをもって近代医療を推進する時代となってきました。医師の立場から見ると、多くの医学雑誌の中から、必要な情報を得るためには、Key word を用いて自由に必要とする文献を集めなければなりません。

そのためにはコンピューターを駆使した情報ネットワークの恩恵を受けることになります。なお、従来薬品会社のMRに頼っていたこれらの文献検索は公取委の指示により、各病院図書室で行わねばなりません。従って、今後は、どんな小規模の病院でも図書室を整備し、このネットワークの中に加わる必要があると思います。そして、病院間のネットワークを更に大学病院図書館との交流が可能になるまでに発展させれば文献検索、文献収集機能は完全なものとなることでしょう。今後は、この理想像に向かって各病院の取り組みがなされ、近畿病院図書室協議会が中心となって、全国的な規模へと拡大されていくことを願っています。更に、学会・研究会・研修会の活動にはスライドを用いて分かりやすい発表形式にすることが大切ですが、将来はこのスライド作成機能も図書室機能に加えて医療従事者の研究発表を援助することもよいのではないかと思います。

20周年を記念して、近畿病院図書室協議会のため中心的になって活躍頂いている小田中徹也事務局長と役員の方々の努力によって、すばらしい「創立20周年記念フォーラム」が開催されましたことを心より喜ぶものであります。

今後近畿病院図書室協議会のますますの発展を期待すると共に、各医療機関の尚一層のご理解、ご協力をお願いしましてご挨拶とします。